



教えて！
営農さん

農作物を台風から 守るために

日本では台風が年平均で4～5回上陸しています。
台風について理解を深め、襲来前後の対策を心掛けましょう。

近年、台風の被害が
基大化しています。
身の安全を確保したうえで、
大切な作物を守りましょう



【編集担当】
営農振興課
荒川 恵梨奈

「教えて！営農さん」では、農産物の
栽培に関する情報をお届けします。

主な台風の進路と雨、風について

台風のコースは時期によつて異なります。7・8月は風台風になりやすく、9月・10月は雨台風になりやすい傾向にあります。また、台風の進行方向に向かって右側に位置する場所では、雨・風が強くなるといわれています。



主な台風の進路
気象庁HPより

右半円で強まる台風の風・雨



台風発生の際は、その進路とともに農地が台風の右側・左側のどちらに位置することになりそうか天気予報などをチェックしましょう。



台風への備えについて

台風通過後は、病害虫被害が多発しています。対策を講じて農作物を守りましょう。

	台風上陸前	台風通過後
水稲	排水路のつまり等の点検・補修を行う。風台風であれば、深水にしておく。	稲体の倒伏や穂発芽が発生した場合は、可能な限り速やかに収穫する。
野菜全般	支柱の点検・補修を行う。無支柱のものは、数株ずつ束にしてひもで縛っておく。	殺菌剤や液肥を使って、雨・風で茎に付いた泥を洗い流す。また、折損茎葉の除去を行う。



営農 EYE

台風上陸前の防除として「ダコニール」などの殺菌剤散布を、通過後は「ダコニール」などの殺菌剤と液肥2号の散布をおすすめします。作物の活力保持が期待できます。

台風上陸前後の圃場の見回りは気象情報を十分に確認し、大雨や強風が治まるまでは行わないでください。また、治まっても転落や滑落事故には十分注意してください。



はじめての家庭菜園

赤紫色の茎が特徴の中国野菜 コウサイタイ

キャベツやハクサイなどと同じアブラナ科の植物です。菜の花のように、とう立ちした花芽や若い茎、葉を食べます。熱を加えると特徴的な赤紫色が濃い緑色に変化します。

① 種まき

やや多めに点まきをする
コンテナに培養土を8分目まで入れる。ビンの底などを使って深さ5mmほどのまき穴をつくる。種が重ならないよう指先でねじるようにして種をまく。1か所10粒程度にし、周囲の土を厚くならないようにかぶせる。発芽するまでは乾燥させないように注意。



② 間引き・増し土

生育のよい株を残して間引く
発芽して混み合ってきたら間引く。元気のよい株を3〜4本残す。このとき隣の株と葉が重なり合わないようにする。生長の様子をみながら、薄めの液肥をこまめに与える。花の茎を収穫する場合は、生長させながら収穫するため、肥料切れにならないように気をつける。



③ 収穫

茎と葉を使う時は株ごと収穫
草丈が20〜30cmになったら収穫適期。茎葉を株ごと利用する場合は、根本からハサミで切って収穫する。コウサイタイは花が咲く茎も収穫可能。花が1〜2輪開花したところに花の茎を手で折って収穫する。



ここに注意

●コウサイタイの種はアブラナ科の中でも特に細かい。発芽時期があまり揃わないため、やや多めにまくようにする。

栽培のポイント

●大きなコンテナで育てると大株に育てられる。
●茎や葉を株ごと収穫する場合は、小さめのコンテナで育てる。

参考文献：新装版コンテナでつくるはじめての野菜づくり(新星出版)

用意するもの

- 種 ●培養土 ●コンテナ
- 鉢底石 ●液肥

栽培カレンダー

